

## Abstract

安全保障研究としての「作戦術」—その意義と必要性

北川 敬三 (海上自衛隊幹部学校 戦略研究室長)

「作戦術 (Operational Art)」とは、戦争の三つの次元、すなわち「戦略次元」と「戦術次元」を繋ぐ「作戦次元」に適応される軍事行動を律する概念である。

「作戦術」によって、軍事のみならず非軍事的領域に対する理解を前提として軍事行動を律し実現するためのドクトリン構築能力と作戦及び戦役 (campaign) のデザインとプランニング能力及び任務指揮 (mission command) の3点が軍事組織に必要な知的態度として認識されるようになった。

1980年代以降世界的に発展してきた「作戦術」の意義や経緯、戦略系譜の中の位置づけを理解することは、今まで戦略と戦術でしか語られてこられなかった日本の安全保障研究における分析手法及び国際的な安全保障研究と実践の共通言語としての地平線が広がろう。

『国際安全保障』第44巻第4号 (2017年3月) 93—109 ページ。